

令和 7(2025)年度卒業生 学習成果アンケート結果

本資料は、令和 6(2024)年 4 月に敬愛短期大学現代子ども学科(以下、本学)に入学し、令和 8(2026)年 3 月に卒業した学生の学習成果について、入学時と卒業時に実施した学習成果アンケートの結果をもとに整理したものである。

1 調査の概要

本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に定める「保育者としての使命感」「『あそび』を通じた保育を実践できる力」「社会に貢献し得るコミュニケーション力・課題解決力」「ICT(情報通信技術)活用力」といった資質・能力を、学習成果アンケートによって把握した。

アンケートは、学内情報ポータルサイト(KCN: Keiai Campus Navigator)を活用し、スマートフォン等を用いて回答された。アンケートは、「よくできている」「できている」「あまりできていない」「できていない」の 4 件法による多肢選択式で実施した。集計にあたっては、「よくできている」と「できている」を統合して「あてはまる」群、「あまりできていない」と「できていない」を統合して「あてはまらない」群に再分類した。各項目について、2 区分に再分類した後の「あてはまる」群の割合を算出した。

2 保育者としての使命感

「保育者としての使命感」については、入学時から高い水準にある項目が多く見られた。特に、「保育者としての社会的使命を自覚し、保育に対する高い志や情熱を持っている」は入学時 94.3%、卒業時 90.4%、「提出期限や集合時刻、規則などを守ることができる」は入学時 96.9%、卒業時 93.0%であり、いずれも高い水準を維持している。

一方で、卒業時に上昇した項目も見られる。「子どもの最善の利益を考えることができる」は 86.8%から 96.8%、「保育者をめざす者として、その場にふさわしい身だしなみを整えている」は 88.1%から 95.5%、「保育者をめざす者として、その場にふさわしい言葉遣いができる」は 78.0%から 93.0%に上昇した。特に、「資格を意欲的に取得している(認定絵本土、認定ベビーシッターなど)」は 22.6%から 74.5%へと大きく上昇した。

この結果から、「保育者としての使命感」は、入学時から高い水準にある項目が多く、卒業時にも概ね維持されていることが示された。一部に低下した項目もあるが、授業や実習を通して、保育者として求められる姿勢や行動をより具体的に捉え直したことがうかがえる。資格取得に関する項目は大きく上昇しており、キャリア形成に向けた意識が具体化したものと考えられる。

3 「あそび」を通じた保育を実践できる力

『あそび』を通じた保育を実践できる力』については、すべての項目で卒業時の割合が入学時を有意に上回った。特に割合の差が大きかった項目として、「子どもの年齢に応じた心身の発達段階や発達障害等の特性について理解している」は45.9%から86.6%へ、「子どもの発達段階や興味・関心に合わせた絵本の選定や読み聞かせができる」は54.7%から90.4%へ、「保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を踏まえ、自発的で主体的な子どもの遊びの重要性について理解している」は55.3%から89.2%へ、「子どもの発達、成長における環境の重要性を理解している」は70.4%から97.5%へ上昇した。

これらの結果から、在学中の授業や実習を通して、子どもの発達理解、保育環境の理解、遊びの意義に関する理解、絵本の選定や読み聞かせに関する実践的な力が高まったことが示された。特に、発達理解や絵本の活用に関する項目で大きな上昇が見られたことから、保育実践に必要な知識と技能が具体的に身についたことがうかがえる。

4 社会に貢献し得るコミュニケーション力・課題解決力

「社会に貢献し得るコミュニケーション力・課題解決力」については、入学時から対人関係の基礎に関わる項目が高い水準にあった。「自ら進んで挨拶ができる」は94.3%から98.7%、「他者の意見を受け入れ、相手の立場に立って物事を考えられる」は95.6%から96.2%であり、卒業時も高い水準を維持している。

一方、より発展的な力に関わる項目では、卒業時に上昇が見られた。「様々な意見をとりまとめ、よりよい方向を示すことができる」は76.7%から86.0%、「反省や経験を生かせる」は86.8%から94.9%、「自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている」は80.5%から90.4%に上昇した。また、「自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えることができる」は54.7%から75.2%、「多様な意見を統合してアイデアを生み出せる」は59.7%から73.2%に上昇した。

本学では、グループ・ディスカッション、発表、プレゼンテーション、実習後の振り返りなどを通して、自分の考えを整理し、他者にわかりやすく伝える学習機会を設けている。これらの学習経験に加え、行事、委員会活動、クラス活動等における協働経験が、コミュニケーション力や課題解決力の向上につながったものと考えられる。

5 ICT(情報通信技術)活用力

ICT(情報通信技術)活用力については、文書作成、表計算、プレゼンテーションに関する項目で大きな上昇が見られた。

「Word(文書作成ソフト)を使って文書が作れる」は32.1%から71.3%、「Excel(表計算ソフト)を使い、統計表の作成や計算ができる」は22.0%から58.0%、「PowerPoint(プレゼンテーションソフト)を使ってプレゼンテーションができる」は35.2%から68.2%に上昇した。

また、『情報リテラシー』の意味を理解している」は 64.8%から 82.2%に上昇した。一方、「SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる」は入学時 91.8%、卒業時 93.6%であり、入学時から高い水準を維持している。

これらの結果から、基礎科目や専門科目における ICT 活用、レポート作成、データ整理、発表資料作成などの学習経験を通して、ICT に関する基本的な力が高まったことがうかがえる。今後も、保育現場や教育現場で求められる ICT 活用力を踏まえ、情報モラル、情報リテラシー、ICT を用いた表現力の育成を進めていく必要がある。

6 まとめ

令和 7(2025)年度卒業生は、入学時から保育者を目指す意識や対人関係の基礎を備えていた。そのうえで、在学中の授業、実習、行事、課外活動等を通して、保育に関する知識・技術、コミュニケーション力、課題解決力、ICT 活用力を高めてきたことが示された。

特に、『あそび』を通じた保育を実践できる力や ICT 活用力では、多くの項目で顕著な上昇が見られた。今後も、ディプロマ・ポリシーに基づく学習成果を継続的に把握し、教育内容や学習支援の改善を行っていく。

令和7年度卒業生 学習成果アンケート結果 入学時・卒業時結果比較

区分	項目番号	項目	あてはまる(%)		割合の差	P値	判定
			入学時(n=159)	卒業時(n=157)			
保育者としての使命感	1	保育者としての社会的使命を自覚し、保育に対する高い志や情熱を持っている	94.3	90.4	-3.9	0.27	
	2	子どもの最善の利益を考慮することができる	86.8	96.8	10.0	<0.01	**
	3	保育者をめざす者として、その場にふさわしい身だしなみを整えている	88.1	95.5	7.5	0.03	*
	4	保育者をめざす者として、その場にふさわしい言葉遣いができる	78.0	93.0	15.0	<0.001	**
	5	自身の健康管理ができる	88.7	91.7	3.0	0.47	
	6	提出期限や集合時刻、規則などを守ることができる	96.9	93.0	-3.9	0.19	
	7	自ら考えてその場にふさわしい行動ができる	94.3	98.7	4.4	0.07	
	8	自己の行動を振り返り改善できる	81.8	82.8	1.0	0.92	
	9	計画性を持って行動できる	68.6	67.5	-1.0	0.94	
	10	ニュースを見たり読書をしたりして、保育に関する社会的動向や最新の情報を得ようとしている	42.1	55.4	13.3	0.02	*
	11	資格を意欲的に取得している(認定絵本士、認定ベビーシッターなど)	22.6	74.5	51.9	<0.001	**
「あそび」を通じた保育実践できる力	1	子どもの年齢に応じた心身の発達段階や発達障害等の特性について理解している	45.9	86.6	40.7	<0.001	**
	2	子どもの発達、成長における環境の重要性を理解している	70.4	97.5	27.0	<0.001	**
	3	保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を踏まえ、自発的で主体的な子どもの遊びの重要性について理解している	55.3	89.2	33.8	<0.001	**
	4	子ども一人一人の個性や性格を理解し、興味関心を尊重できる	78.6	98.1	19.5	<0.001	**
	5	個々の子どもに気を配りながら、全体の動きをみることができる	69.8	86.0	16.2	<0.001	**
	6	子どもにわかりやすいような話し方ができる	74.2	92.4	18.1	<0.001	**
	7	子どもの気持ちに寄り添い、子どもの気持ちを大切にしたい援助ができる	79.2	98.7	19.5	<0.001	**
	8	けんか等の場面でお互いに思いを主張し、互いの気持ちを理解できるような援助ができる	61.0	87.9	26.9	<0.001	**
	9	子どもの興味・関心を踏まえた、様々な遊びや活動の援助ができる	66.7	88.5	21.9	<0.001	**
	10	子どもが歌や手遊び、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう援助ができる	68.6	89.8	21.3	<0.001	**
	11	子どもの発達段階や興味・関心に合わせた絵本の選定や読み聞かせができる	54.7	90.4	35.7	<0.001	**
社会に貢献し得るコミュニケーション力・課題解決力	1	自ら進んで挨拶ができる	94.3	98.7	4.4	0.07	
	2	他者の意見を受け入れ、相手の立場に立って物事を考えられる	95.6	96.2	0.6	1.00	
	3	他者と良好な人間関係を築くことができる	95.0	94.3	-0.7	0.98	
	4	組織や集団の一員として自分の役割を自覚し、求められる行動ができる	89.3	95.5	6.2	0.06	
	5	報告・連絡・相談ができる	89.9	94.3	4.3	0.22	
	6	目的を実現するために積極的に自分の意見を言える	72.3	76.4	4.1	0.48	
	7	様々な意見をとりまとめ、よりよい方向を示すことができる	76.7	86.0	9.3	0.05	*
	8	全体を見渡し、臨機応変に対応できる	83.6	85.4	1.7	0.79	
	9	反省や経験を生かせる	86.8	94.9	8.1	0.02	*
	10	自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	80.5	90.4	9.9	0.02	*
	11	自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えることができる	54.7	75.2	20.4	<0.001	**
	12	多様な意見を統合してアイデアを生み出せる	59.7	73.2	13.5	0.02	*
ICT(情報通信技術)活用力	1	Word(文書作成ソフト)を使って文書が作れる	32.1	71.3	39.3	<0.001	**
	2	Excel(表計算ソフト)を使い、統計表の作成や計算ができる	22.0	58.0	35.9	<0.001	**
	3	PowerPoint(プレゼンテーションソフト)を使ってプレゼンテーションができる	35.2	68.2	32.9	<0.001	**
	4	SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる	91.8	93.6	1.8	0.69	
	5	「情報リテラシー」の意味を理解している	64.8	82.2	17.4	<0.001	**

(注) P値は小数第3位を四捨五入し、0.01未満は < 0.05、** p < 0.01 を表す。